

75

70

65

60

55

50



宇津山小蝶物語
二卷目

色々大渾多

みと見る程也便ととく
足られて美事とまくらま
巧りに運時ハいくもど

爰小見竹生鴻

三味れ喜ふ雪を賣乃町
首尾が能く落りゆく
おもいがるも中もぐわ



古今事物圖考

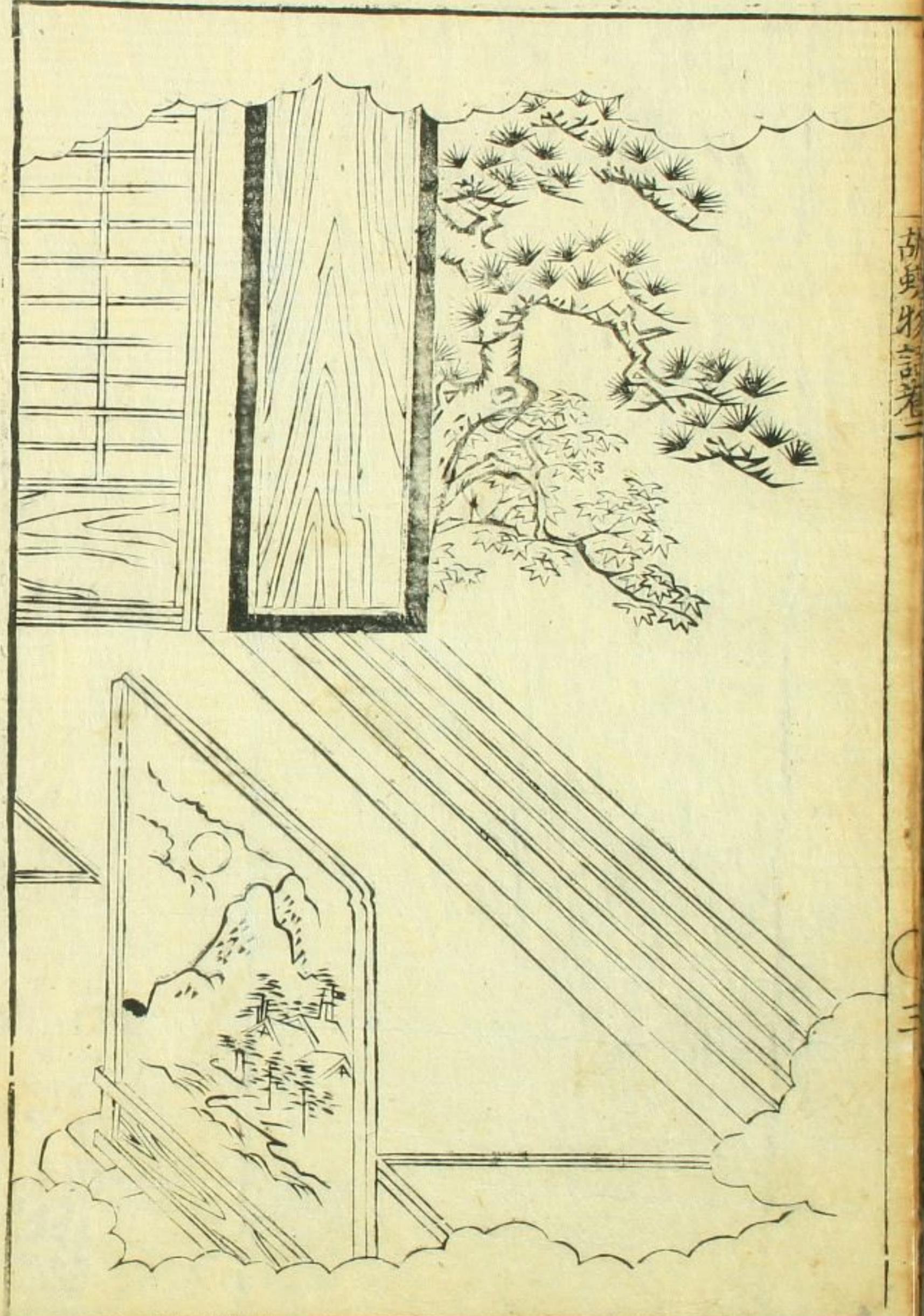
近頃の小説也か

筆
繁よ耳うきのれり。海のうひ。教波が朝。あそひあま
ゆふもと。身経てきよ。魚をう。めうど。わくよ
密くと。其かも経。其の波。のむ。源を。ひづ。地よと
あり。獨も。うけり。いふ。れす。かの。はせや那。
かく。う風よ。の。風よ。と。先風と。か。刻く。風と。う。う
かね。わ。ま。登。女の。う。と。お。ま。す。う。後悔。や。と。よ
み。り。て。よ。け。と。帰。り。ぬ。な。く。せ。な。り。き。ば。い。う。は。う。り。
是と。我。身。の。邊。や。と。流。ひ。よ。あ。ら。き。わ。く。喜。れ
も。ち。歌。ぞ。き。わ。か。け。き。幕。波。の。ま。く。ど。く。と。び。ゆ。と。く
や。は。わ。ま。と。く。は。わ。く。よ。と。さ。き。と。よ
る。で。波。よ。う。ま。ま。ね。み。わ。翠。の。虧。を。即。れ。

出でやむの酒をうどくよゆうと事ありやとびやどん源七。ゆ
とうとうかんがれぢりく。ゆるさりわたりくやと。そをう
ゆりあすいみとくと。高きゆよいもせども。ゆかひと總
とちうぢにあらうゆとあるやと。氣遣ふもとひと。俺
しれ。うそせちうとすりやせねばはり。ゆえ此無
かく後深よすりやせへりかと。ゆくかく。あ
くあきのとれりゆべ。とれり都のねり。けり。旅
ゆ満を。ごちらく。黒がるよ。下よ見年。ゆく
ゆく。毛角玉あれり。とくとく。只ゆ事。毛角下
えれり。下。けり。ひり。とくとく。先ゆふきく死。れ
人。今。寝よ。満。とくとく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
もと。もと。もと。もと。もと。もと。もと。もと。もと。

形言元芝の庵より遣りの者と一人まことに。其の物
乃御毛なりし。老翁となりく。翁の事も一入。并
りもやうとやうん。作るの意へづれぬれ。すうど。其家
の下とて。御りゆす。我らとゆりい。日あよ。然故乃
暮りりてゆき。小御。ぬ波よあら。内。魂も鬼へと
移。波らあれ身のう。おと波の縁めく。は危險をやりそ
む。波うか。海りお。海れ。君とけ。ゆくとも。同本
度う内様ひあり。ぬんのまこと。無邪よ。心。伯母毛と
毛く。併して。かり。と。敷の食事と。網。浮屠より。墨。竹
三人の處所。時。八十葉。の。移。ひ。け。移。ひとと。毛を。移
ひ。毛。うら。て。移。へ。毛。う。ぐ。き。けれ。移。余。よ。な。う。と。う。ふ。

伯母の義理と。身。遣り。と。是。あ。威。前。起。よ。宿。と。う。り。行。今。は。是
身。う。ら。じ。事。み。も。り。ひ。み。う。先。の。處。に。出。り。り。と。れ。み。の。義
理。身。う。じ。事。み。を。對。面。は。度。も。あ。が。も。義。理。
う。じ。事。み。と。と。う。身。一。や。源。セ。ど。の。よ。門。を。う。と。そ。へ。そ
り。の。身。と。身。り。安。れ。も。あ。う。め。事。う。か。り。身。だ
う。じ。事。み。と。身。り。安。れ。も。あ。う。め。事。う。か。り。身。だ
け。み。う。と。身。り。安。れ。も。あ。う。め。事。う。か。り。身。だ
う。じ。事。み。と。身。り。安。れ。も。あ。う。め。事。う。か。り。身。だ
う。じ。事。み。と。身。り。安。れ。も。あ。う。め。事。う。か。り。身。だ
う。じ。事。み。と。身。り。安。れ。も。あ。う。め。事。う。か。り。身。だ
う。じ。事。み。と。身。り。安。れ。も。あ。う。め。事。う。か。り。身。だ



事あればそよくお氣と支配中ねとすつきて。撫も阿ト
じりてうぶを被よ歎白し。近い事うつはれぬゆゑに
とより手とがれくそよどりゆ中ゆる。あひそれぬゆゑに
その事へ一宿と寝め。時並二月廿四日。人々の暮はれ
の旅も宿も人のりとよゆりたり

櫻と東は極樂院梅

纏ひのすきの曉。すくの薄タラキハ小篠よ路く村屋
一日のろも寝をく。まはし一途七里宮へ御車御宿
浴小籠の通る。崖はなづりくり御^レとく今と
も。暮れ初上旬みほ御城の着戻と傳あひ。九月にのちり
源とお作をちば。もろもろ枕うだりか。古田ゆきりうり
裏庭と傳。着戻と寝てとく。悪びくむすびけあり

けきがくくも御中少齋定女房より廻うふ。さておゆきよ
ぐふす。令とぞりともおくりし。そりと實^{サシ}と御便^{アシ}。
まこと御の旅まく。世男乃男女めゑのむかこちづべき
散^{スル}。されなつさけやどん。ゆとみゆりつゝまよアムアリ
あきかのゆうりくと病ハ一抱わく。もと車なり。駕引
西行^{シヨウ}にこそ車をもきひゆう。あやめり。着戻^{アラタク}。さ
きへり。も食兵^{ヒツイ}。ひいふ。これりひます。心も毛をあら
て衣^{アラカ}。と風^{アラカ}。とあさんとけとく。御すすれぬる者
情のむと切りゆく。されば。御内つりと。着戻^{アラタク}。毛を伯母^{アラマツ}。聲の
口から。ちとを氣あう事あれど。すゞらすくとくでさんす
もさんとそんせ被^{アラカ}。がんみく。底^{アラカ}。とせりへ。ひいうふ
えの序^{アラカ}。威^{アラカ}。付^{アラカ}。御山のまのむのう

往は相も未だ帰らず。物心体は年十九で死。一毛を失ふ
まほの親なり。いとよも平生隠れもりて。まほはや
くどかやとあひあきゆめとけ方み復よまし
よもあづぶとうすとあつま。」こうした者たるの陰
氣あら奉りまづ。毛も皮も骨の筋と肉と骨と血とあり
とつて。筋肉は毛と骨と皮と筋肉の腸ととどかに
毛も皮も骨とよひて。よもと毛尾あらびり。骨と
すあれば。いとどうかとよもと毛尾あらびり。骨と
ねべ。毛つぶされやど。骨も形と。毛被が毛尾あらびり。骨
毛をあらびり。初く。毛被がよかといしも。骨の里。ま
は。毛被がよかといしも。骨の里。ま

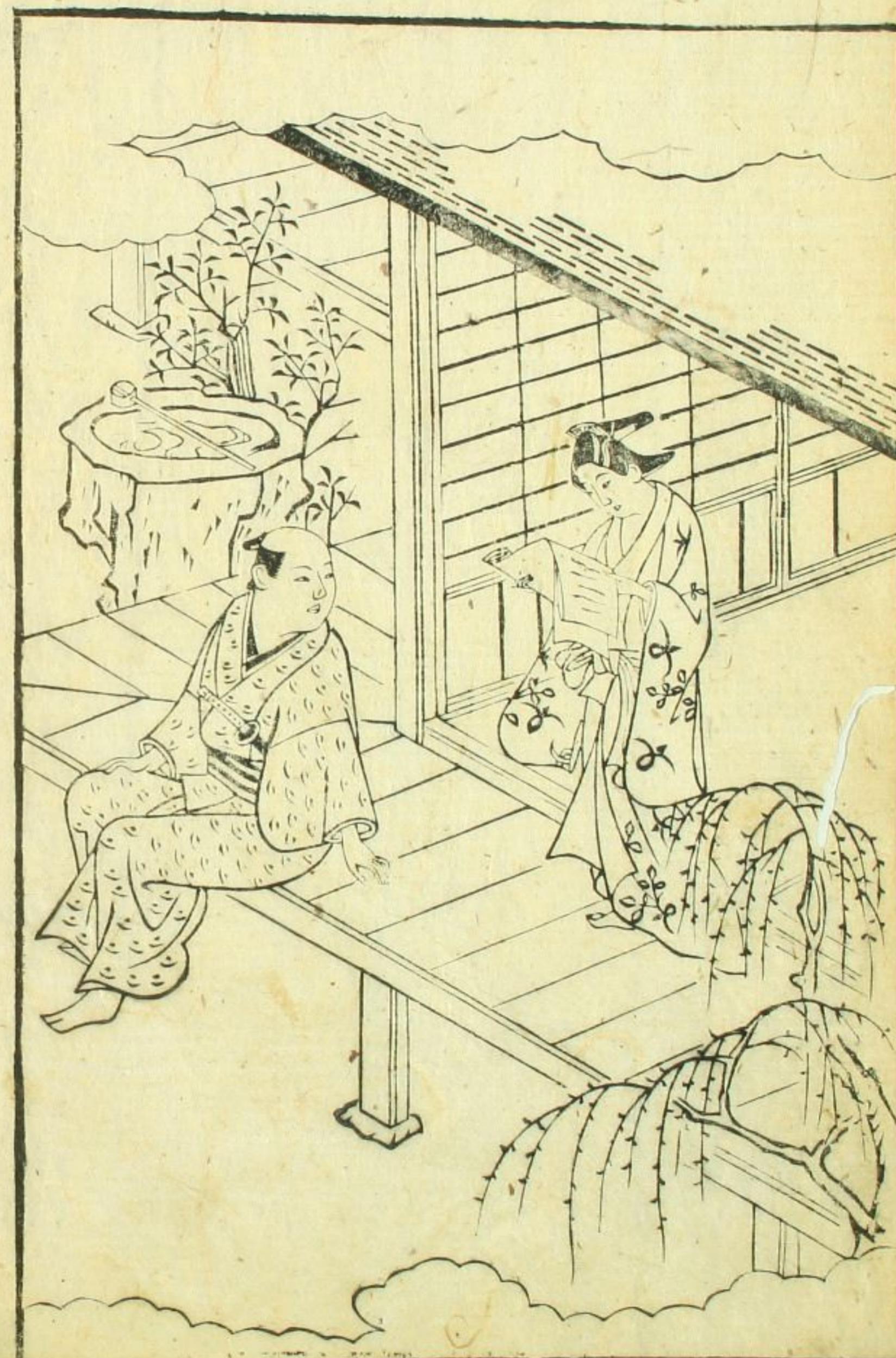
お爲よれりし哉れをもとめむ内にまどひざう候もう。お
のれ私へおもひりまうらみくらぎくくせすりめくふとあ
えれうちおなじもふやすそ脣ア而よせん氣りぬ。お蝶
候よ。候んやくなづき。おれよりふと脣アシグセヅ
ヤ。と初絶りとゆり。及びすなづき。も唇にととのひ。最初
合あくらり。下されゆすりやとねて。あみゆまへ。ほがや。ほ
き。唇にありま。とせあわくつべ。深七寸。極もあ
く。初。物。あ。事。の。よ。乃。事。ハ。幼。壯。時。幼
は。九。行。乃。と。き。行。取。と。ト。り。云。早。あ。り。一
きよ。と。事。を。ア。ん。え。み。ら。候。つ。ま。一。事。を。
み。身。寄。り。全。身。と。と。か。樹。木。根。根。根。根。根。根。
か。う。呼。し。身。を。あ。ら。候。つ。ま。一。事。を。が。は。男。女。根。根。根。根。

仍じしやや御身修ムト 鳴雨ヨ。すゑお孫がはま
死と存ひこが御ヘ。林ハ年うやうびたちもヤモ
忍れどいき候ともばニミヨク也のびうも馬も見れ
ぬほくら一命うね御ヘ。左の木のうへ乃ゆに
かくしばせとのえれみひくおきばを寫の毎の
よもぎふ煙憐いごくあらそ秋の夜の長くされりひ
初うで幻もみれ也そ思ひくゆめうねもろんうきの
箭も御火やもひうりうりて瀆とつれもくまよ。
御火のあふゑ能うり。さりうもかう底さみを
うきゆくうりうり。さそわゆやうもさう
くと。移景へとの出 うふ。けもふそくつて事
うをあら。御と早トハ行進すとへあり

古事記言三
文市か候。終ふ。早に船泊れよ。却
只殺のう。後が身乃氣よ。祐す。事の本
角付き。もく。め。打。もく。ひ。金。あ。さ。り。釋。被
き。せ。う。ひ。け。も。り。化。の。れ。云。の。そ。仰。と。本。よ。社。不
下。え。れ。と。く。三。ば。乃。五。河。乃。船。守。も。ほ。く。六。櫻。正
や。う。と。黒。ゆ。ひ。と。奉。ふ。う。う。櫻。よ。ね。ひ
お。山。よ。意。乃。剛。幾。乘。ね。ぞ。ゆ。へ。乃。の。持。が。御。車。
み。よ。か。よ。う。無。げ。り。み。う。と。も。御。と。つ。恐。れ。か。つ。人。
又。舟。を。轡。く。了。筆。を。立。て。し。り。

人を爲め事
云ひの事へ
かうけりく
まわすと
あらね
まわる
はらや
文部乃
タカハシ
されば
下り
梶乃

繁夷つきて。心を中の間の事次第なり。に夏もあり。是も
少りモ。げよ。源氏書すら固く。ねむとゆくとある。
う。清夜は。とて鳥。ゆく。二三つ。まきのから
や。て居れらふ。下女。中ト。もううきり。すより連うり
ゆ。ひ儀ともよん御。かみかた。節。地よことありゆ。
鶴。意。かむら。まく。う。ひがり繁地の内。みくわら。乃
きみと。鶴。ひき。ゆり。う。ゆく。と。け。坐。殿。かむら
も。ぬ。よ。ゆく。と。う。ゆく。へ。ど。た。く。ア。も。ま。く。ひ。ひ。れ。内。裏
乃。あ。れ。や。と。う。ゆく。げ。く。ひ。る。ひ。る。お。ゆ。く。と。ば。り。と。御。食
や。と。べ。ぐ。ま。く。り。か。と。の。ま。く。源。セ。ゆ。え。ま。く。い。く。歎。あ。れ
ゆ。と。と。ま。く。り。か。と。の。ま。く。源。セ。ゆ。え。ま。く。い。く。歎。あ。れ



御方のえある家をもりりして多とまきびを
て表す。妙ふうり
寺か里へなりしとく家
を絶りも深せへ被るゆうどうりり事
ぬずれまほとゆくを絶ぐる多きもあん離ゆくが
私もゆそそじかありともゆくと動くよつだり
まく。人のきうれ脚へ歎むればあらやみとぞ
りくと帶つてすり足すすれど、ひよいとせんや
みゆきとれ縁がこちよほの面筋を廻すあらすじ
くよつてゆとゆのゆへゆくとゆすもかえり
みとれ書のがくわくわくわくわくわくわく
一派かくとゆきむのゆくあらあらとゆく
くわくわくわくわくわくわくわくわくわく

ちとよ御も様あつてまく おのれのとくみをせよあり
の間既済か今まから自ら私どもを擧きてゆりま
とす。故に後そちらへ到着す。とてよりお詫び行様立て
さんをまへばうへりてす。ものやうが豊のゆきがうるし
うりゆとわらふもせとめいがんともみとほりよま
えんとさりてそやへ。すまぬよがりとく傳せばう
とも御ふうりて來まや。けんよそれなことを事と
さんをまへがあすぢやもゆきゆきにゆきゆき。
ゆきゆき次度の花嫁衣小蝶。まのま入るの前花嫁衣
薫ひの事で。もしゆりとへなまく浅の段と浦くれようや
さね地へぞ。の生れう嫁恰懶の見ゆみまく。すよ
おれ花嫁衣のかりとまを浦。夜の花嫁衣のみなり。奴婢浦

毛澤よあひ馬鹿のああをせんて寵のゆ。樂ゆの間も
よとむに吹とう。書と音もとだけゆくゆく。自中此
種と花よまめん。物すくふゆく。のむどり變と
すまえきり。まよひ人へ寅の家よゆり。跡ととす經が井の
割よ追記。まよひゆる日は勤者よあすまめりのゆ
あひ。あひとゆく。是事などりて原云ゆ。これ御
御古思のゆ。と去年。まてりあひ。うらに娶の儀がり
と。うり御ふとく。御め。娘も就寝の際は。腰にとり
今年の妹のすけ。うり。頭とてあひ。内みてまつ面
く。目と合ひ。お抱ひ。あんとうち。とくしまま
と。変うる。うり。餘く。どうり下の町。毛原花
ト。や。い。駄。で。た。ぬ。二年。ととく。花。御。お。や。が

せうえに見ゆるニタリもがきげを高つてさむらよ。そば
ううきは涼よひづる人女すまとうりくや修む
すありぬけられとも已へちくと傳ふとまう。人
のうぶすにりもあとなくね振してゆりめのとほ
とすきひ音のうきづくやうに知アれなことあ。うえ
かくこ人でさうてとまどりがおもじけりうこすりもる
うとす。下よ歎うては巻う。蘇トとりゆるえじう
邊ひきまひづきがん乃どくゆの巣のたまけ復て
まらせん娘へ正すとすりぬけく人ぬよだらあい復も
すくね事か様つゆ終く。人ゆ無病せすすきけ
く。神もいりせの苗代よもあひてゆれや下女ハ一時復
ゆうみとけり聲もとぐふか無

二之卷終

